



静岡新聞社  
静岡放送社長

松井 純

会員の皆様におかれましては、日ごろからサンフロント21懇話会の活動に多くのご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

昨年は東日本大震災に象徴される1年でした。大震災による多くの課題を、東海地震の発生が懸念される地域に暮らす私たちが、教訓としてどう共有し、生かせるかが問われています。

懇話会活動は今年で18年目を迎えます。会員お一人、お一人のご協力のたまものと感謝しております。

昨年は、会員の皆様方にSBSのラジオ番組「しずおかマイトーク」に出演いただくことになりました。隔月でお一人、登場いただき、自らの企業や所属団体の挑戦、さまざまな話題を披露していただき、地域の活性化につなげよう—という趣旨です。積極的な出演をいただき、番組で大いに語っていただければ幸いです。

県東部の発展に向け今年もご支援、ご協力をお願い致します。新たな1年が皆様方にとって、大いなる飛躍の年となりますようお祈りします。



代表幹事  
スルガ銀行社長

## 岡野光喜

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、今年もそれぞれのお立場で、さらなるご健勝とご活躍をお祈りいたします。

サンフロント21懇話会の活動につきましても、大いなる知恵とアイデアで、県東部の活性化を一段と前進させましょう。

昨年は「動物の愛護と福祉のセンター（仮称）構想」の推進を川勝平太知事に提言するとともに、

伊豆地区分科会のテーマとさせていただきました。本構想は公益財団法人「動物臨床医学研究所」が掲げる取り組みで、我が国における動物の医療や関連する教育、福祉の拠点となるものです。動物との共生を伊豆から発信し、新たな価値観で地域の活性化を図る1つの手法ととらえています。

昨年3月の東日本大震災が私たちにもたらしたものを忘れてはなりません。それまでの暮らしの場を一瞬にして失うことの痛みを我がこととして肝に銘じたいと思います。

地域の活性化を考える幸せをあらためて、かみしめています。これまで以上のご支援、ご協力を切にお願いする次第です。

**東部地区分科会**

2011年11月28日開催

# 「東部の新時代を拓く交通ネットワーク」 をテーマに知事の講演やパネル討論



「サンフロント21懇話会」（代表幹事・岡野光喜スルガ銀行社長）は11月28日、東部地区分科会を三島市のみしまプラザホテルで開いた。新東名の開通（来年初夏予定）と、南北軸高規格幹線道路（三遠南信、中部横断、伊豆縦貫）の整備進展などによる物流や交流の広域ネットワークがもたらす「ふじ

のくに”新時代の幕開け」をテーマに川勝平太知事が講演し、パネル討論では東部地域が新道路網の可能性や地域振興に生かしていく方策を探った。

会員ら約140人が参加。松井純静岡新聞社・静岡放送社長は「道路は経済活動の大きな柱であり、新交通網は景気の冷え込みに対する解決策の一つ。伊豆縦貫道の一日も早い開通が望まれる」とあいさつし、活発な議論に期待を寄せた。

県交通基盤部の野知泰裕道路局長は東部を中心に県内の交通網の現状や将来像を説明。県が策定中の「ふじのくに交通ネットワークビジョン」の方向性や実現の処方箋（せん）を語った。

パネル討論のテーマは「道路が拓（ひら）く新時代―描け東部のネットワーク」。懇話会シンクタンクTESS研究員の青山茂シード取締役副社長がコーディネーターを務め、元建設省沼津工事事務所長、元国土交通事務次官の谷口博昭芝浦工業大学大学院教授、中島寿志静岡経済研究所専務理事、渡辺靖乃三島商工会議所多極分担型地域検討特別委員会委員が新東名や伊豆縦貫道が持つ可能性、地域づくりに生かす方策を巡って意見を交わした。

川勝知事は道路だけでなく鉄道や空路も含めた広域交通ネットワークを構築する重要性を強調し、命の道と位置付けた伊豆縦貫道の整備促進、早期開通に意欲を示した。

### 主催者代表あいさつ



### 静岡新聞社・静岡放送社長 松井 純

本日は何かとお忙しい中、大勢お集まりいただき誠にありがとうございます。本日の東部地区分科会で取り上げるのは交通ネットワークです。3月の東日本大震災では大津波で道路が寸断されましたが、いち早く復旧させてその後の災害対策に威力を発揮しました。道路の整備は極めて重要であり、経済に与える影響は計り知れない。伊豆地域では縦貫道の一日も早い開通が望まれます。

大震災後は計画停電や福島原発問題から節電が叫ばれ、電力以外にも節約ムードが広がって消費が落ち込んだ。加えて為替問題、急激な円高の進行で日本経済は窮地に立たされています。失われた

20年、いつになったら明るい兆しは見えるのか。そうはいつでも地道に一步一步前進していくしかありません。

新たな交通ネットワークの構築は厳しい経済状況の打開策の一つになる。実りある討論を期待しています。

### 基調報告

## 「東部地域を支える 交通ネットワーク」

県交通基盤部道路局長 野知 泰裕氏



新東名の開通と南北軸3道路が開く  
「新東海道時代」

東部地域を支える交通ネットワークの現状と、

いま県が取り組んでいる「ふじのくに交通ネットワークビジョン」の策定についてご紹介したい。

本県は東京圏と中京圏の間にあり、高度成長期からの広域交通は現在の東名高速道路、東海道新幹線がメインとなって東西交通を支えてきた。そ

れ以外の広域交通ネットワークを構築するための道路整備では、新東名高速道路が平成32年度をめどに海老名市（神奈川県）から豊田市（愛知県）まで約255<sup>キロ</sup>の区間で整備が進む。来年初夏には県内の御殿場から引佐（浜松市）まで162<sup>キロ</sup>が供用を開始する。また広域的に南北を結ぶ高規格幹線道路として三遠南信、中部横断、こちらの伊豆縦貫が進行中。2年前に開港した富士山静岡空港と御前崎港、現東名、新東名の陸海空を結ぶ南北軸の道路整備も進めている。これらの開通・完成は本県の新交通ネットワーク時代の幕開けとなる。

### 1時間40分で八王子と修善寺を結ぶ

現・新両東名と下田を結ぶ約60<sup>キロ</sup>の伊豆縦貫道は現在3カ所で整備が進む。一つは東駿河湾環状道路で、東名沼津インターから国道1号までの区間10<sup>キロ</sup>は平成21年7月に供用を開始し、伊豆中央道（函南塚本インター）までの間は平成25年の開通を目指す。

伊豆の中部、天城北道路は平成20年4月に修善寺から大平インターまで開通し、残る湯ヶ島までの区間を整備中。一番南側の河津下田道路（13<sup>キロ</sup>）は1期と2期に分けて行う。2期区間は環境評価が済み、来年度の事業採択を予定。1期区間は都市計画アセスメントで手続きを進めている。東駿河湾道路の沼津インターから西、原町までの間は事業化を待つ。

この伊豆縦貫道が整備されると、伊豆地域が非常に近くなる。塚本インターで伊豆中央道と直結する平成25年には圏央道も開通する。そうすると、今まで3時間10分かかった東京・八王子から修善寺間が1時間40分まで短縮する。ぜひPRしてほしい。

### 期待膨らむコンベンション施設

人を呼び込むための事業も進行中だ。JR沼津駅周辺総合整備事業は既に広場の整備や商業施設の営業などいくつかの事業が展開しているが、大規模集客施設の整備が本格化する。その東部地区コンベンションセンターは展示・イベント施設が平成25年夏、翌年には隣にホテルや国際会議場が供用を開始する。県内外から多くの方が訪れるだろう。

伊豆半島ジオパーク構想は地域振興に資する取り組みということで、地元の皆さんが認定に向けて活動されている。また来年秋には育樹祭がある。

式典を袋井市のエコパアリーナ、お手入れ行事は伊豆市のあまぎの森で予定している。このころには新東名も利用でき、関係者は新東名を使ってエコパからお手入れ会場に移動する。県内の移動が円滑に進むことを広く知っていただくいい機会だ。

富士山の世界遺産登録に向けては景観施策が重要だ。周辺市町に参加してもらって富士山地域景観協議会をつくり、眺望地の改善、屋外広告物の正常化などと取り組んでいる。積極的に進め、富士山を取り巻く地域の魅力度アップに努めたい。

県内をかすめる中央新幹線（リニア）は2027年の開業予定。現在の新幹線「のぞみ」がリニアに移れば、「ひかり」「こだま」に余裕が生まれ、「ひかり」の停車増が可能となり、地域の活性化につながることを期待できる。新幹線は富士山静岡空港の直下を走り、「空港新駅」設置の夢も膨らむ。新駅ができれば、新横浜から羽田空港までの時間距離とほぼ同じになる。大いに期待しているところです。

### ビジョン実現へ50の処方箋

ふじのくに交通ネットワークビジョン「東海道新時代」は策定に向けて検討委員会を5回開催した。現在、素案をまとめたうえでパブリックコメントを行い、最終的に公表するという段取りで詰めの作業に入っている。文化・観光、経済・産業、安心・安全、暮らし・環境の4分野で交通ネットワークとの連携についてご意見や具体的な方策をいただいた。

ビジョンは5つ、実現するための処方項目は50に及ぶ。東日本大震災を教訓に確実な避難、効率的な人・物資の緊急輸送など非常時の道路空間の確保と在り方。新東名の開通で実現する東西軸の多重性を生かして内陸側に奥行きのある土地利用を図る。日本海側や北関東を含む南北軸の交流ネットワークの拡大を県の枠を超えた新たな圏域の形成につなげる一などが入っている。

県は交通インフラの短期、中期、長期の整備状況に合わせ、それらを最大限に活用するためのソフト・ハードの施策展開を、ふじのくに交通ネットワークビジョン「東海道新時代」（仮称）として取りまとめ、ふじのくにの自立のため官・民が一体となって県内の産業・文化・観光などの地域振興に役立てていく。

## 講演

## 「“ふじのくに”新時代の幕開け」

静岡県知事 川勝平太氏



## 伊豆縦貫は命の道。何としてもやる

新東名の県内区間が来年初夏には開通する。先ほどこの新東名が来年の人気商品トップ10に入っていないとご指摘があったが、前倒しで実現するのだから当然のこと。神奈川県側は全然できていないし、引佐（浜松市）から愛知県の豊田東までの間もできていない。だから首都圏をはじめ日本中の人が新東名162<sup>キロ</sup>の開通をほとんど知らない。知らないのも無理はない。だから開通を一生懸命宣伝する必要がある。初夏という開通時期も前倒しになる可能性があり、イベントなどの準備を急いでいる。

新東名はいろいろな意味でレベルの高い道路であり、新東名を生かすためには縦の道、南北の道が重要なカギになる。西は三遠南信、真ん中は中部横断、そしてこちらは伊豆縦貫。3・11東日本大震災では東北自動車道が復旧に威力を発揮した。被災地の方々の命を支えた。伊豆縦貫も命の道だから何としてもやらなければならない。なぜなら伊豆の国道135号と136号は海にへばりつき、そこはリアス式の海岸。震災に見舞われたらどうする。東名から伊豆縦貫につながるルートは三島市塚原までが既に開通し、再来年には函南の塚本まで延び、天城北道路も進む。下田側も新規事業化の見通しがついた。

東日本大震災で東部、伊豆半島は東京電力管内のため計画停電で大きな影響を受けた。脱原発、脱原発依存の流れは明確で、自然エネルギーへの転換は不可欠。太陽光や温泉熱、賛否の議論はあるが風力発電、そして小規模な水力発電（小水路発電）などに県を挙げて取り組んでいる。もしもの時に避難する所には太陽光などの自家発電、電源が必要だから、有事にも対応できるエネルギーの地産地消を可能にしたい。その研究・開発に民官学が一体となって取り組んでいる。

## 富士山に似合う生活空間を

明るい話もある。静岡、山梨両県の「富士山」の世界文化遺産登録は目に見えてきた。来年早々には英文化した推薦書を国が国連教育科学文化機

関（ユネスコ）に提出し、夏から秋ごろには世界遺産を審査する諮問機関・国際記念物遺跡会議（イコモス）の先生方が現地調査に入り、再来年のユネスコ世界遺産委員会で決まる。現地調査の先生方はどこから入るか分かりません。地元も富士山と似合う生活空間を作り上げていくことがますます重要になっている。桜と富士山が引き立てあうように、都市が新たな連結のもとで一層暮らしやすいまちを築いてほしい。

世界文化遺産登録に向けて静岡、山梨両県の足並みがそろい、共に2月23日を「富士山の日」とすることになった。我々が先行し、11月に山梨県の横内知事さんが制定のための条例を出した。今までは何となく甲府商人にやられてばかりでしたが、「富士山」ではこちらが一步先行している。いいことは前倒しでやろうというのが私の方針だから。例えばこちらが「富士山百人一首」を出すと、向こうは「富士百句」。短歌編に続いて俳句の「富士山百人一句」の編纂を打ち出すと、向こうは海外からの募集も含めた「富士百句」。お断りはあるが盛り上がりにつながるなら「どうぞどうぞ」というわけです。

ちなみに「富士山百人一首」は最初2千部、あっという間になくなり、追加で1万部刷った。それもすぐさばけて2万部加えた。残部少々のようなので、お早めに。「百人一句」の方は俳句の名手で物理学者の有馬朗人先生、こちら出身の女優で俳句をたしなむ富士真奈美さんらに入ってもらって選んでいるところだ。

「富士山」と一緒に世界文化遺産登録を目指しているのは神奈川県の「武家の古都・鎌倉」。侍文化の鎌倉と富士山、日本の文化を象徴する2つが県を接し隣り合わせに存在する。観光客、来訪者に県境はありませんから、箱根、伊豆を加えての結びつきをうまく生かしていくと魅力的なものになる。同時に山梨県と結ぶ縦の道も厚くしたい。

伊豆半島のジオパーク構想は来年、日本のジオパーク委員会に、再来年には世界のジオパーク委員会にと経過して次の年には世界ジオパークに認定されるという方向で進めている。感心したのは高校生たちの取り組み姿勢。伊豆総合高校とか下田の高校では地学の勉強以外に、伊豆の自然や文化

と合わせて紹介するクラブができ、小学生らに説明やガイドをしている。素晴らしいことだと思いませんか。

### 評価高まる「がんセンター」

道路ができると、行く人と来る人の往来が盛んになる。行くのは当たり前、そのための道路ですから。では来る人をどうするか。例えばJR沼津駅北口に東部コンベンションセンターができる。最初はマンションでも、という話のようだったが、千本松原やかつて御用邸があったきれいなところの玄関口にマンションを建ててどうするんだということになって、千本松原をイメージしたコンベンションセンターができる。どんな名前にするか愛称を募集しているので、グランシップやアクティシティに匹敵するような、いや負けなネーミングをしていただきたい。

三島はどうでしょうか。花の町にするんだといっているけど、北口にはコンクリートで鉄条網、有刺鉄線の工場がある。あそこは三島じゃなくて長泉だが、「これはもうけしからん」と企業の会長さんのところに文句を言いに行った。言い合いにもなったが、さすがはトップ企業の会長さん、有刺鉄線が取れた。壁に色も塗った。美化への協力というか、まちを愛していることが分かってうれしかった。

さらに北に向かえば、がんセンターがあり、クレマチスの丘がある。がんセンターの引き寄せる力はすごい。去年12月の科学雑誌「ネイチャー」に10頁にわたって紹介された。がん＝死というとらえ方はもはや死語に近い。回復率が7割だから治ってしまう。だからリハビリにも力を入れていてますます評価を高めている。

ファルマバレーにはいろいろな医療機器、医薬品関連の企業が張り付いている。医療機器販売額は去年に続いて日本一、それも2位以下を大きく引き離して。医薬品は残念ながら埼玉あたりに負けて2位。でも両方を合わせると日本一。近くにあるクレマチスの丘も素晴らしい所だ。きれいな庭と美術館、食事もできる。隠れた名所のように映るが、1位の石川県金沢の21世紀美術館に次ぐ施設になっている。ですからこの地域はがんが治り、癒やしができ、技術もある。さらに水よし、景色よしと健康産業のメッカになった。

### 花のまちには芸術劇場が似合う

一方、東海道新幹線より南はどうか。三島には三嶋大社があり、楽寿園がある。刀剣のコレクションで知られる佐野美術館もあり、いい庭を備えている。2千人以上を収容できる芸術劇場を建てる計画もある。花のまちに芸術劇場、共に心を豊か

にしてくれる。なぜ2千人以上か、世界に通用する公演が打てるからだ。首都圏から、世界から人を呼べる。だから劇場でコンサートなどを楽しんだ後、東京に帰るもよし、おいしいものを食べるもよし、ちょっと足を延ばして沼津や伊豆半島を巡るもよしといろんなことができる。いい意味で沼津と三島が競い合い、魅力あるまちになってほしい。東部地域の中核づくりに全面的に協力したいと思っている。

私は今、危機感を持って急いでいろんなことに取り組んでいる。実現するためにはまず計画を立て、青写真を作る。明確な青写真を作ったら優先順位を決める。そうしたら工程表を書き、日程表を入れる。入れたらあとは前倒し。10年かかるものも3年ぐらいでやりたい。もちろんできることとできないことがあるけれど。県庁東館2階にプロジェクトを張り出し、担当部局や◎や△とかで評価をしてボーナスに反映させる。徹底して仕事本位の姿勢で臨んでいる。

### 優れた「点」を道路で「線」に

東部は新幹線の北側に富士山、南側にジオパークを持ち、富士山麓には健康産業として医療や医薬が集積しつつある。これらを結ぶ道路を整え、伊豆縦貫までしっかりとつなぐ。そして命の道とする。有事には命の道だが、平時は生活の道だから訪れてよし、住んでよしという地域になる。住民の幸福度を高め、幸福が実感できる地域とするため、市長さん、町長さん、地域の人がもっと考える必要がある。

先ほども申しあげたように、東部にはクレマチスの丘のほか、いくつもの点として優れたものがある。これを道路で線として結びつけ、面としてやっていく。どこが中心かはあまり考えなくてもいい。富士山静岡空港の利用でも山梨に行く人ばかりとか、富士山と富山は同じと思い込んで富山に行くという声を聞くが、私はそんなにこだわらない。富山の反対側にある本物の富士山を見に来てもらえばいいのだから。

空港はもちろん、新東名もあれこれ文句をいう前に使っていただきたい。特に伊豆半島の観光関係者は若い人が率先して出掛けること。中国や韓国の生活、ライフスタイルを知れば誘客や接客のヒントになる。相手を知ることが重要だから待っているだけじゃなくて大いに出かけてほしい。自己発見にもなるし、そういう時代に来ている。

東部の発展に向けて新東名が前倒しで開通し、伊豆縦貫道の前進や東部コンベンションセンターの建設、2千人以上入る芸術劇場計画など新時代に対応する環境が整いつつある。この絶好の機会を皆さんと一緒に生かし、実りあるものにした。



# 「道路が拓く新時代— 描け東部のネットワーク」



## 〈パネリスト〉

谷口 博昭氏 芝浦工業大学大学院教授(元建設省沼津工事事務所長、元国土交通事務次官)

中島 寿志氏 静岡経済研究所専務理事(交通ネットワークビジョン検討委員会委員)

渡辺 靖乃さん 三島商工会議所多極分担型地域検討特別委員会委員

## 〈コーディネーター〉

青山 茂氏 シード取締役副社長(サンフロント21懇話会TESS研究員)

◆青山 パネルディスカッションでは東部における交通ネットワークはどのような可能性を持っているか、その可能性を引き出すためにはどのような取り組みをしていかなければならないかについて議論していきます。

谷口さんは国土交通省の元トップで、沼津の工事事務所長も務められていて東部の事情に詳しい。東部地域では道路のネットワークを生かすためにどのような視点を持つべきか、その視点を通してどのような可能性が見えてくるかについて伺います。

### 沿道と接点を持つことが価値を生む 自助と共助のコミュニティーづくりを

◆谷口 縁あって沼津には2回勤務した。所長は昭和63年から平成3年の2年3カ月近く。着任の前年に4全総(第4次全国総合開発計画)が立ち上がり、高速道路の延長を約2倍にする計画の中に伊豆半島の背骨となる伊豆縦貫自動車道が取り入れられた。地元には建設大臣を経験された先生もいて期待は大きく、私も40歳と若かったこともあって「10年で仕上げる。第2東名(新東名)も形が見えてくるから伊豆縦貫道もセットである程度の部分が走れることが望ましい」などと申し上げていた。あれから23年たって何だと思われるかもしれないが、日本経済の失われた20年とほぼ同じ時間軸を経たのかなと感じている。

日本の経済はこの先どうなるのだろうか。不透明であり、様子見の状態に陥っている。そうした

中で明るい未来志向のビジョンを策定し、財源の裏付けのある具体的なものにできるだけ落とししていく。とはいっても国も地方も金がないわけだから10年ぐらいで伊豆縦貫はどこまでできるだろうか、三遠南信、中部横断は一と落とし込んでいかなないと、先ほど申し上げたようなことの「二の舞」になりかねない。

道はしょせん手段です。日本は道の文化と言われ、歴史がある。道の「ち」が交わるところ、分かれるところは「ちまた」(巷、岐、道股)であり、にぎわいが生まれ、市(いち)が立ち大きな集落ができてやがてまちに発展していく。道には多種多様な機能があり、道を粗末にして発展した国はない。道は時代時代に応じ、時代のニーズに応じて進歩を遂げ、改良や維持管理が行われてきた。

新しい世紀の道は車で通過するためだけではなく、沿道との接点を持つことによって大きな価値を生み出す。道の駅なり、高速道路のSA(サービスエリア)、PA(パーキングエリア)は地域との交流接点としての機能があり、道の機能に付加価値を加え高めていくことが重要だ。道の駅は全国で970あるが、道は走るだけじゃなくて止まることによって地域との接点ができ、地場産品とか地域の交流機能が高まるということで高く評価されている。東日本大震災では防災拠点となり、防災機能としても見直されている。

大きな道の駅ではなくてもミニ道の駅でもこうした機能は発揮できる。地域との交流接点が増えれば、道から沿道に対する働きかけが高まり、沿

道から道に対する恩返しも起きる。沿道と道との交流、コラボレーションが高まる。新しい時代に求められていることではないか。

新しい世紀の社会についても考えたい。地域社会は自立と共生、共生は「ともいき」と言った方がいいが、この精神を大事にしながらかんでいく。自助と共助、公助ということになるが、公助にはあまり期待しない方がいい。東日本大震災や予想される東海地震など広域的な被害の場合はもちろん公助が大事だが、普段の地域はある一定のエリアで老若男女が暮らせるような自助共助の精神で自活できる社会が望ましい。エネルギー、環境、危機管理を含めると、地産地消的なコンパクトなまちづくりが一つの姿ではないかと思う。コンパクトなまちでは発展が遂げられない場合、伊豆縦貫のように規格の高い道路によって隣の都市と結ぶ。離れていても一体的な都市としての機能を発揮し運営ができる。このようなイメージで道の機能をとらえてみたらどうか。

繰り返すと、広域的な交流連携を可能にするネットワークの強化を図り、まち中はできるだけ自立できるような自助と共助的な地域社会、コミュニティを形成していくことがあるべき姿ではないか。

◆青山 中島さんは地域経済の専門家です。東部地域はファルマバレープロジェクトを軸とする先端健康関連、国際的な輸送機器製造業、海の幸山の幸の豊かな農林水産物、恵まれた自然を生かした観光などが展開し産業のデパートといってもいい。新たな道路ネットワークが東部地域の経済活動にどのような影響を与え、どんな可能性を見出すと考えますか。

### 新しい産業を興すチャンスだ 東一辺倒から西も攻めよう

◆中島 静岡県の景気動向を表す指標の中で非常に悪い数字がある。有効求人倍率という雇用のデータだが、リーマンショック後の2009年2月に本県の数字が初めて全国平均を下回った。下回っても回復していれば問題はないが、何と直近まで32カ月連続して全国平均以下。本県経済が曲がり角、大きな壁にぶつかっていることを示している。

新東名が開通し本県の弱点だった南北の交通網も中部横断、三遠南信、伊豆縦貫がこれから整っていく。産業の空洞化というリスクの中で新交通網を生かして新しい産業を興すことには大きな意義があるし、そのきっかけになる。

東部地域を申し上げると、経済活動の重心が東を向いている。東京を見て関東を見て仕事をしている。企業立地をみても首都100キロ圏内の移転型だ。伊豆の観光は関東、東京の奥座敷といわれるように東に置かれている。そこに新東名が開通す

る。時間、距離の問題が改善するからもっと西に注目していい。観光客を呼び込むうえで非常にスムーズになるからだ。これは大きなメリット、チャンスではないか。もちろん東に重心を置きながらだが、ここは西に向けてもっと攻めていくという気概がほしい。

さらに複線化のメリット。現東名と新東名がダブルになることにより大動脈が現東名一本というリスクが軽減される。現東名の開通時に関東の企業を東部地域に誘致できたように、もう一度本県の立地優位性が高まるのではないか。サプライチェーンの寸断リスクに対しても、新東名の沿線は内陸型で企業が求めている立地の適地になり得る。ここをうまく使っていきたい。先ほど谷口先生からPA、SAを生かせというご指摘があったが、インターチェンジを含めてダブルとなることで高規格道路との接点が飛躍的に増える。新たなビジネスチャンスの場にもなる。

もう一つは戦略的な産業として物流を考えた時、本県の交通ネットワークが飛躍的に高まっていくことで優位性が増し物流機能の立地を促す。例えば中部横断道を使えば首都高を通らなくても北関東と直結できる。日本の物流センターの機能を果たすぐらいの志を持って集積を図り、拠点化に取り組んでもいいのではないか。

◆青山 道路ネットワークがもたらす可能性についてのお話が続きましたが、地元三島の渡辺さんは生活者の視点からどのように感じていますか。伊豆縦貫道の一部、東駿河湾環状線が10キロほど供用され、沼津、三島市街地の渋滞緩和につながっている。生活行動に変化はありますか。

### 広がる生活者の行動範囲 便利さの陰で流出に危機感も

◆渡辺 井戸端会議的なことで恐縮ですが、同じ



渡辺 靖乃氏

年代の女性同士では「お出かけするのが便利になったね、東名まで行くのが便利になったね」というのが正直な感想です。地域の活性化などをメインにこうした道路がつくられて来たと思うが、住ん

でいる者からすると、「お出かけが便利になった」というとらえ方になってしまう。

開通から時間が経つにつれ、道路の使い方が上手になってきて行動範囲が広がった。例えば外食とか買い物も近場で済ませていたものが「ちょっと向こうまで」になり、パートの職場選び、子供の送り迎えも同様です。近場の塾、近場のスポーツ少年団にしか連れて行けなかったものが、よりニーズに合った塾とか習いごと、スポーツ少年団

への送迎が可能になった。介護の面でもおじいちゃん、おばあちゃんを連れて行く病院などの選択の幅が広がった。パートも市内に限定して探していたものがもう少しエリアを広げて探すことができ、働きに出やすくなった。

地域の人が外に出て行ってしまうという危機感も若干あるが、住民が広域的に活動する手段として新しい道を使うということが日常化してきた。それから情報があふれている中で、東京のどここのまちの何とかというお店で何々を買いたいというピンポイントのニーズがあるから、そこに行ってみようと思うきっかけにもなっている。

◆青山 中島さん、道路と消費流出の関係はどうとらえたらいいですか。

◆中島 道路が持つ本質的な問題。道路のネットワークができて交通が便利になると、外からも来るけれど内からも出て行く。そういう中でいかに地元がその道路をうまく使って活性化に結び付けていくかは地元次第。今度開通する新東名は県外の人にとってもメリットがあるわけで、静岡県がそのメリットをより多く得るためにはそれなりの努力、工夫をしないとイケない。

◆青山 関連してある事例を思い出した。平成



青山 茂氏

21年に東名のスマートインターチェンジ沿いにショッピングセンター「ららぽーと磐田」がオープンしました。今、お客さんは3次圏を超え40<sup>キロ</sup>、50<sup>キロ</sup>に及ぶところからも訪れている。道路の持つ力です。スピード（時間）と欲しいものがあれば人はそれに向かって行動する。やはり沿道でどれだけの魅力、価値を作っていくか、大きな努力が払われるべきだ。

ここからは可能性を生かすための具体的な取り組みについて伺いたい。

### 生かせ伊豆のブランド力

◆谷口 新しい世紀に入って10年になるが、少子高齢化とグローバル化の時代。大きくとらえると、地域全体をどう再編していくのか、再配置していくのか、また都市をどういう形で再生していくのか—という観点が極めて重要だ。

まちの魅力、個性をどう発揮していくのか。東部地域は放っておいても東名ができ、新東名が開通する。それだけポテンシャルが大きな地域なのかもしれないが、グローバル化という観点で時代を先取りし、チャレンジブルに取り組んでいかないと置いていかれる。グローバル化のスピードに取り残される危険性がある。

この地域は三遠南信とは違って観光という大き

な財産がある。1次産業に観光を組み合わせて大きな産業に育てブランド力を生かす。富士山や柿田川・狩野川などの自然、歴史や文化を生かしながら付加価値の高い産業に持っていく。自然再生エネルギーを取り込んだ環境都市というのでもいいのではないかな。

ただインフラに関しては厳しい環境が続く。やっかいなのは橋梁や上下水道などのインフラが維持更新の時期を迎えていること。民のフィールドを広げて民の資本と資金を活用するようなことを取り入れていかないと、新しい世紀に立ち遅れたインフラ整備になりかねない。これは真剣に考える必要がある。

沿道の魅力づくりで言えば、広域的な車道は国なり県なりが管理する必要があるが、沿道に対しては地元で全部任せてしまってもどうか。画一的に植栽帯が必要だという考え方ではなく、ソフトインフラというか、地域のニーズ、発想に応じて駐輪場なり自転車道を設けてもいい。規制緩和を伴うが、新たな道の機能や沿道とのコラボレーションが高まる。新しい世紀の道の文化やコミュニティーが見えてくるだろう。

◆青山 具現化のために必要な取り組みは。

### 道路を活用するアプリを

◆中島 道路を活用するためのアプリケーション



中島 寿志氏

をいかに作るかが地域に求められる大きな課題。自分たちの地域のために有効に活用する仕掛けを地域として考えていく。例えばアプリ（ソフト）で機能が追加できるスマートフォン

（多機能携帯電話）じゃないけど、スマート観光をキーワードに、地熱発電で電力を供給し、地域交通には電気自動車を使う。そんな仕掛けを作ると新しい観光資源になる。もちろん地域間競争を伴うからお互いの地域が切磋琢磨する。SA、PAの活用の仕方についてもビジネスモデルの開発を地域が競い合う。新しい使い方を生む原動力になる。

新東名沿線への物流機能の集積でも、象徴となるような企業を誘致することが大きな鍵だ。ほかの企業を呼び込むうえで有利に働く。伊豆縦貫道は観光に特化して考えなくてもいい。リゾート&研究開発の機能が集積し立地しうる場所にもなりうる。その時に必要なのは沼津、三島の都市機能の充実だ。

◆青山 渡辺さんはみしまコロケなど地域を元気にする活動をしている。地域を元気にしていくためには何が必要か。

## チームワークが不足していないか

◆渡辺 住民、生活者というのはどうしても個人のレベルで考えがちで、自分たちの行動が地域に影響することはあまり考えていない。地域振興にかかわる人たちがちょっと頑張っ「いいものがあるよ、あなたが求めているものがここにある」と発信していけば、東部地域で行動することが増えてくるのではないかと。みしまコロックもそうですが、地域の良さを掘り起こして発信することにもっと力が入ると思う。

今の東部は選手はそろっているのに若干チームワーク不足の部活動みたいな感じがする。選手一人一人のポテンシャルはとて高いからコーチや監督、チームに対する思いなどがもっと育っていったらいいな、強化できたらいいなと思っている。先日ご当地グルメの祭典・B1グランプリに行ってきたが、1、2、9位と大活躍の岡山県勢は情報交換や現場でのおもてなしの工夫などが綿密で質も高かった。私たち東部地域は「チームとしてやらないといけない」ところまで気持ちが高まっていないような気がする。今後はそのような方向性を探っていきたい。あまり市町の枠組みにとらわれず、観光は観光、食は食と分野分野でまともしていけばより良くなる。

◆青山 新しい道路ネットワークを生かすための視点や可能性についての発言をベースに、我々は最初の第一歩は何をすべきでしょうか。

## 民の知恵、資金を活用

◆谷口 チーム力の話が出ましたが、国もチーム力の概念を大事にする必要がある。国は国、地方は地方、地域コミュニティは地域コミュニティとして主体的に取り組む必要がある。その役割分担がきち



谷口 博昭氏

としていないため、優秀な日本国民の力と資金が生かし切れていない。国は広域的な交通ネットワークについてはいついつまでどこまでやるというような道筋を示す。地方は個性ある県づくり、地域づくりを目指す。その際、新しい公を念頭に民の知恵なり資金を生かす行政的インセンティブを与えるような方向性、規制緩和を図ることが重要だ。仕分けのように過去をいくらいじくっても未来は生まれてこない。削ったものを未来志向で生かすこととセットでやらないと未来型のビジョンは見えてこない。

10年先すら分からないという時代だが、総力を挙げて取り組み軌道修正しながら歩いていく。

方向性が間違っていなければ10年先で見えなかったものが2、3年後には少し見えてくる。国民も勇気が出るし力が出る、知恵が出せる。そのような方向性、道筋をきちっと示すことが極めて重要だ。

## 新東名は儲けのチャンス

◆中島 日付は忘れたが、この11月に2012年のヒット予想ランキングというのが経済専門紙に出た。1位は東京スカイツリー、ベスト10に新東名は入っていません。電通のヒット商品予想でもベスト10に入っていなかった。これは良いことか悪いことか。ある意味では皆が注目していないのはチャンスだが、静岡県の人あまりガツガツしていないから、この新東名で一儲けしてやろうという人がいないのかもしれない。

新東名ができるならこれで一儲けしてやろうという人がいっぱい出てくるのがビジネスモデルにつながっていく。だから来年のヒット商品にも出てこないのはチャンスだということで、今から新東名を儲けのチャンスとして考えようではありませんか。

## 地域を過小評価しない

◆渡辺 先日、九州新幹線全線開通の商業的を見て新幹線が通るといことはこんなに感動的なことなんだと初めて思った。なぜなら物心ついたときから新幹線があり、東名高速があった。いかに恵まれた地域で生活しているのか。私たちがそれに似た感動を味わおうとしたら、今度できる新しい道路に思いを込めたい。でもただ喜んでいけるのでは不十分。地域の振興にかかわっているものとして、今一度地域の良いところ足りないところをきちっと見つめ、いくら東部の人間が人が良くても良いところは過小評価しないで出していく。その方法を具体的に考えていきたい。

◆青山 パネル討論を通してはっきりしたのはまずチャンスと思うこと、そして伊豆縦貫道はいつまでどこまでできてということ把握し財源措置まで含んだ実現的な計画とする、最後はいかに気持ちよくやる気を出していくか、ということではなかったでしょうか。

## 【略歴】

### ◇パネリスト

■谷口 博昭(たにくち・ひろあき)氏 1972年建設省採用。88年中部地方建設局沼津工事事務所長、国土交通省道路局長などを経て国土交通事務次官。2011年から芝浦工業大学大学院教授。和歌山県出身。

■中島 寿志(なかじま・ひさし)氏 1976年静岡銀行入行。80年静岡経済研究所出向、96年研究部長。2010年から専務理事。現在交通ネットワークビジョン検討委員会委員、雇員用対策審議会委員など。浜松市出身。

■渡辺 靖乃(わたなべ・やすの)さん 三島商工会議所多極分担型地域検討特別委員会委員。県PTA連絡協議会副会長を歴任。みしまコロックの会事務局を務める。三島市出身。

### ◇コーディネーター

■青山 茂(あおやま・しげる)氏 オリエンタルランドを経て現在シード副社長。全国スポーツレクリエーション祭「スポレクおきなわ」などをプロデュース。県内では伊豆新世紀創造祭、東海道四百年祭などに参画。サンフロント21懇話会TESS研究員。栃木県出身。

## 新年のご挨拶



静岡県知事

川勝 平太

明けましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

富士山のように人々の憧れを集め、この地に生きる誰もが誇りを持てる地域づくりを目標に掲げた「富国有徳の理想郷“ふじのくに”のグランドデザイン」を策定し、本年は2年目を迎えます。今年の干支「辰」にあやかり、龍のごとくに富士の高嶺（たかね）を目指して、このグランドデザインに掲げた目標を前倒しし、進めてまいります。

「憧れ」を呼ぶ“ふじのくに”づくりのためには、四季がもたらすうまいや美を日々の暮らしに取り入れることが大切であると考えています。古来から、人間は、自然に対する畏敬の念を絵画や詩歌で表現し、その想いを具現化してまいりました。今春、2月23日の「富士山の日」には、富士山に対する想いを込めた百句の俳句により富士山百人一句を編むこととしています。昨年末に、

同じく2月23日を富士山の日と定めた山梨県の皆様とともに、心を込めて富士山を寿（ことほ）ぎたいと思います。

初夏には新東名高速道路が開通します。静岡県の西端から東端を結ぶ162kmの新たな交流軸により、それぞれの個性豊かな地域が持つ様々な資源や知恵の結合から生まれる新たな価値を活用し、存在感のある地域として成長させることが重要であるため、沿線周辺を内陸のフロンティアとして捉え、その実現に邁進してまいります。

東部地域には医療・医療器具・医薬産業が集積しつつあり、医薬品・医療機器の生産金額は日本一を誇ります。病気の治療のみにとどまらず、予防医療、障害がある人でも仕事ができる機器の開発など、健康で人生を楽しむことを支える夢のある新しい産業がこの地域から生まれ、発展することを期待しています。また、伊豆半島には美しいリアス式海岸があり、詩心を育む癒やしの観光地です。この半島の美しい風景は、人々を魅了し、世界の人々の憧れの土地になるでしょう。

世界文化遺産への登録を間近に控えた富士山の麓（ふもと）であるこの地において、多くの可能性を開花させるために、一緒に、富士の高嶺を目指してまいりましょう。



沼津市長

栗原 裕康

新年あけましておめでとうございます。

平成24年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

お陰様で、市長就任以来4度目の新年を迎えました。一昔前までは市長としての実績は市民の皆様喜んでいただける、いわゆる箱物を造ることで評価されたものでしたが、申すまでもなく、今はそんな時代ではありません。新たな施設建設はなるべく抑え、既存のものをいかに有効活用するかが問われます。昨年の事業仕分けはまさにその観点から議論していただきました。

昨年、選んでいただいた「ぬまづの宝百選」も市民の皆様「灯台下暗し」のことわざ通り、沼津にはこんな素晴らしい資源があるのだという理解を深めていただく一助にしたいと存じております。

本年は先の大震災にかんがみ、津波対策について、まず市民の皆様を救う、その一点に集中

し、避難するためのさまざまな施設を、引き続き最優先で整備してまいります。

また、今年第二東名が御殿場から三ヶ日まで一挙に開通します。現在実現に向けて努力中のスマートI・C設置計画と相まって、沼津へのアクセスがより便利になります。さらに、沼津駅北で近い将来完成予定のコンベンション施設は、東部の拠点都市である沼津の地位をさらに高めるものと期待しております。

県が事業主体となる鉄道高架事業は現在、合意形成に時間を要し足踏み状態ですが、ぜひとも実現したいと願っております。

市政は申すまでもなく、住民にとって一番身近な存在です。従って、ともすれば目の前の課題に忙殺されがちですが、私は沼津市の長期戦略として一に方向性、二に方策、三に態勢を考えるならば、方向性は地球環境を大切にする環境立市、方策はさまざまな環境政策、態勢は市民との協働だと思っております。

重ねて申し上げるならば、まず大地震に対する防災減災対策。既存のもの活用、さまざまな日常課題の解決。そして長期的な展望。これらを着実に市民・議会のご協力をいただきながら進めてまいりたいと願ってやみません。

# われら 辰年生まれ



昨年は3月11日に死者・行方不明者1万5千人以上という甚大な被害をもたらした東日本大震災が発生。原発事故も引き起こし、社会をかつてない不安に陥れました。経済も自粛ムードの高まりから個人消費が冷え込み、これに欧州の財政危機による歴史的な円高などが加わり、県内経済は試練の1年になりました。

今年の干支は辰(たつ)です。辰年の性格は闘争心が強いと聞きます。そして直観力や集中力が人一倍強く、決してあきらめないとも言われます。

今年1年を天高く、力強く舞い上がる竜にあやかり、何事にも強い気持ちで立ち向かい、あきらめず成長を実感できる年にしたいものです。景気回復を期待するとともに、会員皆様にとり、実り多き年になるよう祈念し、辰年生まれの方々に新年への抱負を寄稿していただきました。



株式会社 土屋建設  
代表取締役

**土屋 紀雄**

昭和15年10月5日生まれ

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。年頭にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

昨年はまさに波乱の一年でした。

3月11日東日本大震災をはじめ、景気問題、雇用問題、年金問題、教育問題、食の安全性の問題など難問が山積みしている中、地域の皆さんの生活を直接支えていくのが我々の役割だと思っております。

今後は、攻めに転じ一日も早く明るい話題をお届けできるよう一丸となって頑張る次第です。

私事ではありますが、昨年、財務大臣表彰を頂きました事は、日頃の皆様のお力添えであり、皆様に感謝する気持ちを本当に大切にしたいと思っております。

年男の今年は、飛躍の年となるよう日々努力し精進して参りたいと思います。

新しい年が皆様にとりまして、良き一年となりますよう、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、私からの新年の挨拶とさせていただきます。



沼津信用金庫  
会長

**諏訪部 恭一**

昭和15年12月5日生まれ

世界の主要国が本格的に財政再建に向け動き出す年となろう。ものづくり経済の成長を大きく超えたマネー経済の拡大のバランス調整が必要である。

遅すぎる東日本大震災復興について一言。これほど大規模な震災は400~600年に一度と言われる。復興財源は300年で計画すれば良い。仮に30兆円だと元金年1,000億円、利息1.3%で、年約4,000億円、300年後の準備に1,000億円、計初年度6,000億円である。高速道路無料化中止

で3,500億円、子供手当1,000円は2,000億円である。時間軸で考えないと財政再建もできない規模になってしまった。さて自分は、今年も「飾らず、見栄張らず、質素に」を心掛けたいと思います。



土屋建設株式会社  
代表取締役社長

**土屋龍太郎**

昭和27年1月1日生まれ

30代は社業一筋、40歳から業界と社会に目を向けて20年経ちました。まあまあ良い時と、具合が悪い時を体験しています。

そんな私が、次の世代を担う当業者である30代、40代の人達に向かって、経営学だけではなく、社会学を勉強しようと呼び掛けています。

事業は社会が必要とするサービスを提供してこそ成り立ち、地域経済は循環しなければ成り立たないという視点で、自己研鑽（さん）と仲間づくりに励んでほしいと訴えています。

企業も地域も自立と共生がキーワードです。



静岡ビジネスサポート  
代表取締役

**秋元 久則**

昭和27年3月25日生まれ

3年ほど前から、森林保全に関する啓蒙活動などを行いながら、竹林の整備、竹材の有効利用を図る事業活動をしてきました。今春には、タケノコの収穫体験施設「三島たけのこ村」をオープンさせ、竹林の整備で出る間伐材をチップや竹炭にして供給するほか、土壌改良剤や堆肥の販売も行っています。

農林水産大臣賞受賞（メーカー：中越パルプ工業株）「竹紙」の販路開拓を推進し、竹林荒廃や残材解消の役に立つよう、これまでの竹の燃料化

や肥料化、紙などの製品利用に加え、タケノコを利用した食品分野も強化したいと思います。



県賀茂地域支援局  
局長

**青木 昇**

昭和27年3月27日生まれ

あけましておめでとうございます。

伊豆地域は、東日本大震災による観光不況をはじめ、人口減少、少子高齢化など厳しい状況が続いています。

しかし、近い将来、郷土を心から愛する人々により伊豆半島連合が形成され、インバウンドやジオパーク構想の進展、伊豆縦貫自動車道の整備などにより伊豆全域が再生すると考えております。

昇り龍のように、皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



明德建設  
代表取締役

**河西 幸一**

昭和27年6月17日生まれ

新年あけましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災により日本中が不安に陥りました。私の住む富士宮市内においても大きな地震が発生しましたが、現在通常の生活を送ることができることに感謝すると同時に、家族の大切さを再認識いたしました。

私は家族との絆を育む場所である家づくりを通じて、そこに住まうご家族の幸せに貢献することができるよう、地道に、一つずつ取り組んでまいりたいと存じます。そして、従来通りゼネコン事業にも力を入れ、成長し続けられる会社を目指していく所存です。

本年もよろしくお願い申し上げます。



株式会社 三鮮商事  
代表取締役

**山下 郁夫**

昭和27年7月9日生まれ

感謝、ありがとうございます。

昨年は東日本大震災、欧州危機、タイの大洪水、大きく変わる変動の年でした。いろんな哀しみが重なりましたが、今年は大躍進の年になる気がしてなりません。

なぜなら、今年辰年、昇り龍を象徴する年です。また私自身も年男ということで、新しいことが始まる予感がしています。昨年、社員旅行で台湾へ行ってきました。とある占い師に今年の運勢を見て頂いたところ「すごくいい！行動を起こすことは全て成功しますよ」と言われ、様々なことに挑戦する意欲が湧き上がってきました。

新たな年は世の中の転換期でもあります。しかし、私一人の力では大変革は遂げられません。社員一丸となって、次なる時代を切り開いていきたい、勇気を持って臨みたい、そう思っております。

私にとっても、皆様にとっても、良い年になりますように。



株式会社 サン  
代表取締役社長

**斯波 幹和**

昭和39年1月13日生まれ

新年明けましておめでとうございます。

さて、サッカー好きの私ですが、スポーツを通じて学ぶことは本当に多いと感じます。

「サッカーのグラウンドの中には1人の王様と10人のドアボーイがいる」といわれます。王様は、試合中にボールを持っている選手です。ポジションごとにいかにベストパフォーマンスを繰り出すのか。そこに面白さがあります。仕事にも応用できそうです。

さて、年男ではありますが、私の誕生日は1月13日、「いいサン」です(笑)。おめでたいですね。今年もよろしく願い申し上げます。



島津急送株式会社  
代表取締役

**中村 誠**

昭和39年3月6日生まれ

明けましておめでとうございます。

私は1964年の東京オリンピックで日本経済が戦後世界に向け花開く時に生まれ、24歳の辰年の時、社長に就任しました。当時はバブル経済の崩壊寸前でした。そこからなんとか24年間生き延び48歳になります。

昨年は震災があり人の死・家族・人生・エネルギー・再建など身に迫る事柄の連続で私が本業とする物流業界も影響を受けました。

今年より24年先の辰年に向けて何が出来るか挑戦スタートの年と考えております。

サンフロント21懇話会に参加しここで知りえる知識や人脈は未来の自分に影響を与えてくれると思います。

今年もよろしく願い申し上げます。

# ●SBSラジオで語ってみませんか「しずおかマイトーク」の出演者募集

サンフロント21懇話会は、静岡県中部未来懇話会の要請を受け、SBSラジオフォーラム「しずおかマイトーク」（放送は毎週日曜日午後6時15分～30分）に会員の出演をお願いしています。

これまでは静岡経済懇話会と静岡県中部未来懇話会の会員が出演してきましたが、県東部のサンフロント21懇話会と県西部の21世紀倶楽部の会員が出演することで、番組内容のさらなる充実を目指す方針です。

サンフロント21懇話会の第1回出演者は昨年10月、代表幹事の岡野光喜様（スルガ銀行代表取締役社長兼CEO）が務め、懇話会の設立経緯や17年間にわたる活動などを紹介しました。

2回目（1月8日放送）は若林久伊豆箱根鉄道社長が2010年から、ビール電車やワイン電車などを運行し、駿豆線沿線の活性化事業を地元行政と一緒にスタートさせるなど地域との連携を強めている現状を説明しました。

会報ではサンフロント21懇話会会員が出演した際のお話の概要を随時ご紹介します。番組で自社、または業界団体などの新製品、事業の特長などを語ってみませんか。出演を希望される方は事務局までご連絡ください。お待ちしております。

サンフロント21懇話会 事務局 TEL 055 (962) 6520

## 広域行政の推進支援



おかの  
みつよし  
**岡野 光喜氏**

サンフロント21懇話会代表幹事  
スルガ銀行(株)  
代表取締役社長兼CEO

【平成23年10月16日放送】

- ▽モットー 前例なきことへの挑戦
- ▽趣味 音楽・美術鑑賞、読書、スポーツ観戦、茶道、ゴルフ
- ▽出身地 沼津市

### へお話のポイント

◆サンフロント21懇話会は1995年6月に提言集団として発足し、県東部の経済人や住民福祉の向上に貢献する医師、弁護士、それに市町長など合わせて321人の会員さんがいます。

◆活動として最初に行なったのが、仮設イベント施設「キラメッセぬまづ」設置の提言。キラメッセは稼働率75%と非常に採算性のいい施設になりました。今年3月で閉鎖されて、2014年には「東部コンベンションセンター」（仮称）に生まれ変わろうとしています。われわれの提言を契機にした動きで、

非常に印象深い事業です。

◆伊豆には温泉、旅館があり、コンベンションを利用して、多くの人に県東部の良さを知ってもらえればと思います。富士山の世界文化遺産登録、伊豆半島のジオパーク認定に関連しても活用できると思います。

◆東部は分散型市町。今年の活動としては広域行政の推進支援に取り組んでいます。歴史的経緯もあるので、あえて合併とは言わず、福祉、医療などで連携した方が住民にとってプラスになるという啓蒙活動を展開したいと思っています。

## イベント列車で地元へ貢献



わかばやし  
ひさし  
**若林 久氏**

伊豆箱根鉄道  
代表取締役社長

【平成24年1月8日放送】

- ▽モットー 人事を尽くして天命を待つ
- ▽趣味 ウオーキング
- ▽出身地 伊豆の国市（旧伊豆長岡町）

### へお話のポイント

◆当社は鉄道、バス、タクシーが中心ですが、ドライブイン、レストラン、水族館など業務内容は多岐にわたっています。

◆地域密着、地元貢献が当社の一番の目標ですから、イベント列車なども行なっています。地元酒造メーカーとタイアップして、夏はビール電車、秋はワイン電車、冬は日本酒電車を運行しています。日本酒電車は「イズシカトレイン」と名づけ、シカ肉をメイン料理としています。

◆1年以上前から、従来型のドライブイン事業からの

転換を目指して、地元の丹那牛乳を生かしたスイーツづくりに取り組んできました。

ゼロからのスタートでしたが、試行錯誤の末、昨年11月に「箱根十国館」ブランドのロールケーキなど7種類のスイーツが誕生しました。

◆駿豆線沿線はこのところ、人口減少などいろいろな課題があり、その解決のために駿豆線沿線地域活性化協議会が発足しました。県東部地域支援局や日大国際関係学部なども加わり、沿線地域の防災体制や魅力ある地域づくり、人口増などを目的に事業に取り組んでいます。

## ◎夏以降、 衆院解散の可能性 与野党激突、消費税政局



共同通信社 政治部長  
井原 康宏

野田政権は消費税率の段階的な10%への引き上げ方針を決め、3月末には関連法案を国会に提出する。今年の政局は、消費税をめぐる与野党激突により、衆院解散含みの展開となるだろう。通常国会会期末の6月以降は、いつ解散総選挙があってもおかしくない情勢。世界の主要国の多くでリーダーが交代する「スーパーイヤー」だが、日本の政局も大きく動きそうだ。

「どの政権でも先送りできないテーマだ」「ネバー・ギブアップ（諦めない）」―野田佳彦首相は年初から、消費税増税を含む社会保障と税一体改革実現への決意を繰り返す。1月の内閣改造では、岡田克也民主党前幹事長を副総理兼一体改革・行政改革担当相として迎え、態勢強化を図った。だが、内閣支持率は横ばいで浮揚効果はなかった。野党の抵抗だけでなく、足元の民主党内にも小沢一郎元代表系の議員グループを中心とした増税反対派を多数抱え、関連法案成立は見通せない。

### ▽通常国会会期末に緊迫

政府、与党の大綱素案は、現在5%の消費税率を再来年2014年4月に8%に、翌15年10月に10%に引き上げる。

野田首相を待ち受ける最初のハードルは、3月末の消費税増税関連法案の閣議決定と国会提出。大綱素案には、消費税率引き上げまでに、衆院議員定数や国家公務員給与の削減、歳出の無駄排除

に取り組むと明記されており、歳出カットが不十分であれば小沢グループが法案提出に反対し、閣議決定できない事態も予想される。

ただ小沢氏は4月に自らの政治資金規正法違反事件の一審判決を控え「3月は勝負できない」（民主党幹部）との見方も有力だ。

次のハードルは6月。衆参「ねじれ」国会では6月21日の会期末までに法案を成立させるのは不可能で、政局が緊迫するだろう。

自民党が会期末に内閣不信任決議案を提出、それに民主党の小沢グループが同調するシナリオが予想される。参院に首相問責決議案を提出し、可決、国会が完全にストップする事態もあり得る。その場合、消費税増税関連法案は廃案、野田首相は衆院解散を選択するだろう。

一方で「消費税10%」を最初に主張したのは自民党。6月の会期末が迫り、国民から「政局優先」の対応に批判が強まれば、自民党が関連法案に賛成し、代わりに成立後直ちに衆院を解散する「話し合い解散」の可能性が出てくる。

「解散カード」は選挙基盤の弱い小沢グループ若手議員への強烈なけん制でもある。野田首相が「6月危機」を乗り越えれば、首相は国会の会期を大幅に延長、7月末から8月中旬のロンドン五輪を挟んで9月に勝負の照準を合わせるとみられる。

### ▽くすぶるダブル選待望

9月には民主党代表選が行われる。「不退転の決意」と言い切った消費税増税が実現しないままでは野田氏の代表再選は難しい。野党側と関連法案成立へぎりぎりの「話し合い」を模索するか、消費税で国民の信を問う衆院解散に打って出る可能性がある。

2013年の衆参同日選（ダブル選）や東京都議選も含めたトリプル選挙を回避したい公明党が与野党協議に応じる道が見えてくる。野田首相はここまでじっくり構えて、政局の主導権を握りたいところだ。

もっとも、民主党内には衆院での300近い議席をできるだけ長く維持し、13年の「ダブル選挙」を待望する意見がくすぶる。自民党を財政的に追

い詰めたい思惑もある。ただ、昨年末のような民主党議員の離党騒動が続くようだと、野田政権は持ちこたえられないかもしれない。仮に消費税増税関連法案が成立したら、解散を求める世論は一気に強まるのが予想され、ダブル選は遠のく。

不確定要素は小沢氏の4月の一審判決。仮に有罪であれば、党内力学が大きく変わる。また「大阪維新の会」の橋下徹大阪市長らの動きも政界再編に絡んで影響しそうだ。北朝鮮、中国情勢や、欧州の債務危機なども国内政局に影響してくるとみられる。

## ◎日本経済、 復興需要で回復へ =最大リスクは 欧州危機と円高=



時事通信社 経済部長  
境 克彦

2012年の東京株式市場は日経平均株価が100円超上昇するなど幸先の良いスタートを切った。辰年の日経平均の騰落率は平均29%と十二支の中ではトップ。縁起をかつぐ市場関係者の間では早くも1万円回復をはやす声すら聞かれる。

期待の背景にあるのは、東日本大震災の復興需要が本格化することだ。9兆円超の復興関係経費を盛り込んだ第3次補正予算の執行が内需を押し上げ、景気の腰折れを防ぐとみられている。昨年末に「持ち直しの動きが一服している」と景気判断を下方修正した日銀も、日本経済はやがて「緩やかな回復経路に復していく」との見方を変えていない。

民間シンクタンク15社による12年度（12年4

月～13年3月）成長率見通しの平均値は、物価変動の影響を除く実質が1.8%、物価変動を反映した名目が1.3%。11年度のマイナス成長見通し（平均で実質マイナス0.4%、名目マイナス2.3%）からプラスに転じる見込みだ。

### ▽不確実性は昨年以上

しかし、主要国の重要選挙が集中し、政権交代ラッシュも想定される今年は、昨年以上に不確実性に満ちている。主要企業トップの年頭所感にも、不透明感の強さに言及したものが目に付いた。日本経済がすんなりと「曇りのち晴れ」を実現できるかは予断を許さない。

最大のリスクは海外経済、特にギリシャに端を発した欧州債務問題の行方だ。既に欧州では財政・金融・経済の悪化が作用し合う負の連鎖が深刻化しており、ユーロ圏の今年上半期の実質成長率はマイナス転落が避けられないとの見方が出ている。もしもイタリアやスペインといった中核国の危機に発展すれば、世界的な金融危機を招く可能性も否定できず、日本経済の回復シナリオは根底から覆る。

大統領選挙を控える米国の経済成長も低空飛行が続くそう。住宅市場の低迷による家計のバランスシート調整が長期化。雇用・所得環境の回復の遅れが重なり、個人消費は緩慢な伸びにとどまるとみられている。中国など新興国の経済にも悪影響が及ぶだろう。

欧米経済の先行き不透明感から、外国為替市場ではリスク回避的な円買い圧力が今年も続き、輸出企業の業績にとって大きな重しとなりそう。年明けの円相場は対ドルで76円台、対ユーロでは11年ぶりに99円台まで上昇した。債務危機をきっかけに市場が混乱すれば、一段と円高が進みかねない。

### ▽原発停止で電力不足も

景気回復シナリオの下振れ要因は国内にも山積している。まず懸念されるのが電力不足だ。今冬の節電要請地域は関西、九州の2電力管内のみで、節電幅も比較的小さい。だが、定期検査後の原発

再稼働にめどが立たなければ、4月中には国内54基の原発が全て運転を停止し、夏場の電力供給に大きな制約が生じる。円高とのダブルパンチは企業の海外シフトに拍車を掛け、生産、輸出から設備投資まで圧迫される恐れがある。家計の所得環境に顕著な改善が見られない中では、個人消費にも過度の期待はできない。

従って12年度のプラス成長は震災復興事業の本格化に伴う公的部門の需要拡大に依存せざるを得ず、景気は回復感に乏しい状況が続きそうだ。復興需要がピークアウトするとみられる年度後半

は、日本経済にとって正念場となるだろう。

こうした不安定な時代に企業に求められるのは、嵐が過ぎ去るのを待つことではなく、変化を先取りして成長の道筋を描くことだ。同じことは政界にも言える。将来への不安を取り払うため、社会保障と税の一体改革推進、環太平洋連携協定(TPP)交渉への参加、エネルギー問題の解決、成長戦略の具体化などに着実に取り組むことが必要だ。消費増税や民主党代表選をめぐって政治の関心が政策から政局に移れば、景気の足を引っ張りがねない。

## サンフロント21懇話会の会員情報

### ■新たに入会された方

- |                                 |                     |
|---------------------------------|---------------------|
| ◇有限会社 塩久商店<br>・代表取締役社長          | 塩崎 崇                |
| ◇有限会社 アスルクラロ沼津<br>・代表取締役        | 山本 浩義               |
| ◇S M B C日興証券(株)沼津支店<br>・支店長     | 林 毅                 |
| ◇国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務所<br>・事務所長 | 前佛 和秀               |
| ◇独立行政法人国立高等専門学校機構<br>・校長        | 沼津工業高等専門学校<br>柳下 福藏 |

### ■アドバイザー

- |   |       |
|---|-------|
| ◇岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・医学部教授<br>静岡県ファルマバレー技術顧問 | 土居 弘幸 |
|---|-------|

### ■会員の変更

- |  |                      |
|--|----------------------|
| ◇(株)静岡中央銀行<br>・相談役                               | 尾形 充生 → 取締役社長 奥田 一   |
| ◇(株)ビック東海 → (株)T O K A I コミュニケーションズ<br>・本部長付担当部長 | → C A T V本部顧問 伊達 耿介  |
| ◇(株)沼津東急ホテル → 沼津リバーサイドホテル<br>・総支配人               | 塚脇 洋 → 齋藤 研一         |
| ◇特種東海製紙(株)<br>・専務取締役                             | 梅原 淳 → 代表取締役社長 三澤 清利 |